様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２１年　６月　２９日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2007～2008
課題番号：１９７３０５１７
研究課題名（和文）中学生の職業意欲の形成に効果的なキャリア教育のあり方に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Effective Career Education in Development of Junior High School Students' Career View

研究代表者　寺崎　里水（TERASAKI SATOMI）
お茶の水女子大学
人間発達教育研究センター・特任アソシエイトフェロー
研究者番号：７０４３２０２８

研究成果の概要：
先行研究の整理を行い、進路選択の一部としてではなく、成人期への「軌道」を形成するものとして職業選択を位置づけなおした。職業の選好や「働くこと」に対するイメージと、社会構造との関係について、中学生が望ましいと思う職業の序列が、おとなが望ましいと思う職業の序列とは異なっていること、性別や居住地域、家庭の教育的環境等の影響を受けていることが明らかになった。
また、中学生の職場体験について、中学生の家族や地域に対する意識が事前と事後でどのように変わったかを分析したところ、数値の上下として測られる変化だけではなく、事前と事後における「働く」ことや「働く人」に対する認識の構造が変化していた。さらに、女子の進路分化研究はこれまでメリトクラティックな選抜原理を持つ学校を差異化の装置として批判してきたが、学校の選抜と配分機能の弱まりと台頭してきたペアレントクラシー、キャリア教育の導入といった事柄は、従来のジェンダー研究に新たな課題を突きつけている。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成 19 年度	1,800,000	0	1,800,000
平成 20 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,900,000	330,000	3,230,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育社会学
キーワード：教育社会学、キャリア教育

１．研究開始当初の背景
文部科学省は産学官の連携による職場体験・インターンシップの推進のためのシステムの一環として、中学生が５日以上の職場体験を行う学習活動を普及させようとしている。その目的は、子どもたちにそれぞれの能力・適性や興味・関心と自らの人生とを関連付けて考えさせることにより、しっかりとした勤労観、職業観を身につけさせることである。この試みは生徒にとっての効果に限らず、学校にとっては教育活動の見直しの機会になること、地域にとっては地域が一体となって子どもたちを育てていこうとする機運が高まり、活性化につながること、家庭にとっては家族の会話を促進し、家庭の役割を再認識することが、それぞれ期待されている。実施においては教職員のキャリア教育に対する理解に加え、保護者や地域社会の協力が不

可欠である。
　しかしながら現状では教育現場においてキャリア教育の受けとめ方は様々であり、職場体験についても、実施にあたっての適当な方法やカリキュラムが提示されないまま、各学校担当教員が手探りで行っているのが実態である。産学官の連携のもと、地域の教育力を最大限にいかす効果的なキャリア教育のあり方を、できるだけ早く検討する必要がある。

２．研究の目的
　本研究は、中学校における職場体験を事例とし、職場体験が生徒の職業意識および進路意識の形成に与える影響および学習活動を通じた学校と職業組織のコミュニケーションの様態について明らかにすることを目的とする。研究の意義と予想されるインプリケーションは次のとおりである。

①職場体験という学習活動の具体的な様子とその効果に関するデータを収集することによって、今後全国で導入される職場体験のより効果的なあり方について、具体的なデータをもとに、カリキュラムや指導、支援の具体策を提示することができる。

②中学生の職業意識と職場体験の効果に関する基礎的データの収集を通じて、議論に足る実証的データを提出できる。職場体験終了後のアンケートに関しては学校がこれまで個々に行ってきたが、そこには社会構造の影響やふだんの学校生活や家庭生活との関連という視点は皆無であり、その検討は研究者にしかできない。

③従来、子どもがどのような職業意識を持っているかという問題は、職業達成志向を高めることが、学校にコミットし、よい成績をとろうとする教育達成へのアスピレーションにつながるという意味で、研究者の関心を多く集めてきたテーマの１つである。しかし、こと職業意識に限れば、個人の認知や発達の問題としてしかみなされてこなかった。近年、教育達成と職業達成の結びつきが弱まり、職業達成によりダイレクトに社会階層の影響がはたらく傾向がうかがえるという指摘があることを踏まえれば、職業意識の発達について、社会構造の影響を含めて社会学的に分析することにより、中学生の進路分化や学習意欲に関する研究の新たな展開を期待できる。

３．研究の方法
　本研究は生徒に対する質問紙調査と、生徒・保護者・受け入れ事業所・学校に対するヒアリングの２つを主な調査方法とする。
●生徒に対する質問紙調査
　本研究では調査（A）と調査（B）の２種類を用いた。
　調査票（A）：学校生活や学習意欲、家庭生活の様子など、ふだんの生活に関する基礎的な事項の把握を目的とする。
　調査票（B）：職場体験の前後に同一の質問紙を用いて行うもので、家族や勤労に対する価値意識を教育心理学的な尺度を用いて測定することを目的とする。

●学校・事業所・保護者に対するヒアリング調査
　地域コミュニティ形成の一環として職場体験を包括的にとらえ、評価するという目的から、子どもを地域の事業所に送り出す側としての学校と、子どもを受け入れる事業所、この２者の関係をバックアップする保護者という三者が、職場体験を軸にしてどのように関わっているのかについて、ヒアリング調査から明らかにした。

４．研究成果

1)先行研究の整理を行い、進路選択の一部としてではなく、成人期への「軌道」を形成するものとして職業選択を位置づけなおした。

2)北陸地方の２エリアの中学生を対象とする調査データをもとに分析を行った。

①職業の選好や「働くこと」に対するイメージと、社会構造との関係について考察した。その結果、中学生が望ましいと思う職業の序列が、おとなが望ましいと思う職業の序列とは異なっていること、性別や居住地域、家庭の教育的環境等の影響を受けていることを示した。

②中学生の職場体験について、中学生の家族や地域に対する意識が事前と事後でどのように変わったかを分析したところ、数値の上下として測られる変化だけではなく、事前と事後における「働く」ことや「働く人」に対する認識の構造が変化したことを指摘した。

3)キャリア教育の問題点について、ジェンダーとの関連から検討を行った。女子の進路分化研究はこれまでメリトクラティックな

選抜原理を持つ学校を差異化の装置として批判してきたが、学校の選抜と配分機能の弱まりと台頭してきたペアレントクラシー、キャリア教育の導入といった事柄は、従来のジェンダー研究に新たな課題を突きつけている。

4) 中学生の職場体験の協力事業所に対するヒアリング調査データを用いて、生徒を受け入れる側の葛藤や工夫、感じている問題点などを明らかにした。

5) 日本の職場体験を行う学習の実践と中学生の職業意識の特徴について国際学会で報告を行い、その一部を論文にまとめた。

6) 日本以上に急激な社会変動下にある中国・台湾において、高等教育機関におけるキャリアガイダンスの需要が高まっている。どのようなキャリア教育に関する理論が導入されているのか、個々の学校の取り組みはどのようなものか、文献や資料蒐集を行い、成果を学会で報告した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① Satomi Terasaki, 2009, Junior High School Students' Interests and Expectations for Occupation: Focusing on academic performance and gender, PROCEEDINGS 05 SELECTED PAPERS, pp.133-138

② 寺崎里水【2008】『職業アスピレーションと社会構造の関係からみたキャリア教育の課題―中学生を事例として―」日本子ども社会学会紀要『子ども社会研究』14巻、pp.45-57

③ 寺崎里水（2008）「興味・関心を重視したキャリア教育の問題－職業アスピレーションとジェンダー－」お茶の水女子大学『人間文化創成科学研究科論叢』10巻、pp.197-206

④ 寺崎里水（2007）「現代中国における高等教育卒業生就職難問題－高等教育と労働市場との関わりからみる－」労働政策研究・研修機構『日本労働研究雑誌』No.569、pp.95-96

〔学会発表〕（計８件）

① Satomi Terasaki, Activity of Learning through Work Experience at Local Community in Japan, Asia Pacific Educational Research Association International Conference 2008, 2008.11. Singapore

② Satomi Terasaki, Junior High School Students' Interests and Expectations for Occupations: Focusing on Academic Performance and Gender, Asia Pacific Educational Research Association International Conference 2008, 2008.11. Singapore

③ 寺崎里水、「働く」を体験させる－受け入れる側から見た中学生の職場体験を行う学習活動－、日本キャリア教育学会、2008.10、宮城（日本）

④ 寺崎里水、キャリア教育とジェンダーに関する一考察、日本教育社会学会、2008.09、新潟（日本）

⑤ WANG Jie, TERASAKI Satomi、Employability Improvement in Changing China: Universities' Employment Support and Career Guidance、The 8th Conference of the Asia Pacific Sociological Association、2007.11, Penang, Malaysia

⑥ 寺崎里水、「職場体験」で何を学ぶか～富山県・社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業を事例として、日本キャリア教育学会、2007.10、東京（日本）

⑦ 王傑・寺崎里水、中国国公立大学におけるキャリアガイダンスの発展と現状（１）－エリート大学の事例から－、日本教育社会学会、2007.09、茨城（日本）

⑧ 寺崎里水、中学生の職業アスピレーション－「キャリア教育」をめぐる諸問題、日本子ども社会学会、2007.06、東京（日本）

６．研究組織
(1)研究代表者
寺崎里水(TERASAKI SATOMI)
お茶の水女子大学
人間発達教育研究センター・特任アソシエイトフェロー
研究者番号：７０４３２０２８